

新潟大学×NTTコムウェア

## 産学連携で加速する 新たなデータサイエンス教育



新潟大学は、2017年4月、デジタル社会における異分野融合研究や人材育成、産学・地域連携の共通基盤となる拠点として、新潟大学研究推進機構附置ビッグデータアクティベーション研究センター（以下BDA研究センター）を設立。NTTコムウェアと連携して「データサイエンス教育・人材育成」の取り組みを加速させています。BDA研究センター長の山崎教授に新潟大学におけるデータサイエンス教育の現状や来年度の展望を伺いました。

### データサイエンス人材育成は「文理協働」で進む

BDA研究センターは2018年5月、NTTコムウェアと、ビッグデータ領域に関する産学連携推進に関する協定を締結するなど、データを利活用できる人材の教育体制整備に取り組んでいます。

2019年には、新潟大学が文部科学省の選定する「大学における数理・データサイエンス教育の全国展開」の協力校として選ばれました。新潟大学は、「データ駆動型社会に向けた人材育成強化」をテーマにかかげ、データサイエンティストの基礎教育を目的に『データサイエンス総論』を開講しました。



河本 倫志  
NTTコムウェア株式会社  
ビジネスインキュベーション本部  
データサイエンス推進室 室長

新潟大学は文理10学部が交わる総合大学であり、本講義にもさまざまな学生が参加しました。山崎教授は「文系・理系という垣根を越えて、データをマネジメントできる人材育成が講義の狙いだ」と述べ、「当初、データを扱うのは理系というイメージがあり、文系の学生が講義についてこられるのかという一抹の不安があった。しかし、いざ開講してみると、新しいことを学びたいという学生たちのひたむきな姿勢に不安が一掃された」と、文理協働で学ぶことの手応えをにじませました。

NTTコムウェアの河本は、「当社でも同じような傾向はある。技術畑でなくてもデータサイエンスの分野で活躍している人材は多い。いかに目的意識を持つかが重要だ」と、ビジネス視点からデータを結果に繋げる重要性を伝えました。



山崎 達也 氏  
新潟大学 教授  
BDA研究センター長

新潟大学×NTTコムウェア  
産学連携で加速する新たなデータサイエンス教育

## 実践と実事例を重視した講義からビジネスを学ぶ

NTTコムウェアが担当した『データサイエンス総論』は2種類の講義で構成されています。

『データサイエンス総論Ⅰ』（以下『総論Ⅰ』）は、座学中心の基礎固めです。まずは「データがなぜ必要か」という前提や言葉の定義をビジネスの現場でのさまざまな事例と共に解説し、「ある分野ではどのようにデータを利活用し、成果やビジネスにしているか」という具体的な理解に繋がりました。

『データサイエンス総論Ⅱ』（以下『総論Ⅱ』）は実践です。学生一人ひとりにPCでデータを扱ってもらい、統計学や機械学習のアプローチで実際に予測モデルを作り、データサイエンスを実践しました。

NTTコムウェアの長谷川は「さまざまな学部の方がいらっしゃるの、なるべくイメージが湧きやすく実践的な事例として、預金セールの成否予測をテーマを取り上げました。近年ではこういった学習用のデータがインターネットでも公開されており、学生の方が自分で学習を継続するにあたって活用できる教材にできることをお伝えしようと考えました」と説明します。

今年度受講した学生は、『総論Ⅰ』『総論Ⅱ』それぞれ百数十名。山崎教授は「全学部生の受講をめざし、来年度はどちらも受講生の数を増やし、特に『総論Ⅰ』は約5倍にまで拡大したい」と学内の教育体制のさらなる拡充を図っていくと述べました。



長谷川 好範  
NTTコムウェア株式会社  
ビジネスインキュベーション本部  
データサイエンス推進室 統括課長



## ビジネス現場で求められるデータサイエンティストとは

山崎教授は、「『データサイエンス総論』では、学生たちにデータを単なる数値として扱うのではなく、それを使ってどうしたらビジネスに結びつけられるか、課題解決になるか、そういう考え方を身に付けて欲しかった。NTTコムウェアの協力で目的は大いに達成され、非常に嬉しく思う」と振り返ります。NTTコムウェアの河本も、「データサイエンスの技術・精度の向上だけにとらわれず、周辺にある顧客や社会課題の解決に真に必要なものは何か見いだすことが社会での価値発揮につながる。そのようなデータサイエンティストが求められている」とビジネス面からも本講座での学びを歓迎しました。

新潟大学×NTTコムウェア  
産学連携で加速する新たなデータサイエンス教育



今後の取り組みとして、新潟大学の副専攻制度の活用が挙げられました。

副専攻制度とは、学位をとるための専攻分野(主専攻)とは別に、違う分野のプログラム(副専攻)を修めると、その分野に関する認定も与えるという制度です。

データサイエンスもこの副専攻にするプログラム作りが進められており、詳細な検討が進められているところです。この副専攻プログラムは、インターンシップに参加するなどして、ビジネス現場のようにデータを捉えることが必要になります。「この仕組みを活用して質の高いデータサイエンティストとして社会に旅立ってほしい」と山崎教授は考えています。

さらに、新潟大学は大学院でもデータサイエンス教育を行っており、さまざまな企業から、より深い現場の事例の提供を受けています。NTTコムウェアも今年度の4月から参加し、今後も継続して取り組んでいきます。

## データサイエンスから広がる新たな教育の形

山崎教授は新たな展望として、「センサーやビーコンを使って人の動きや設備の状態などさまざまなデータの収集・分析に取り組んでいきたい。合わせて、データ活用と倫理は切り離せないことは注意して学生たちに教えていきたい」と述べました。

最後に「BDA研究センターでは、今年度から学生研究会を立ち上げた。学部を跨いでの交流が進み、アイデアソンに出たり、勉強会を開催するなど、自主性や積極性が出てきています」と、データを扱うことをきっかけに垣根を取り払った教育の輪が広がっていくことへの期待が語られました。

これからも新潟大学とNTTコムウェアはさらなるデータサイエンス教育の発展に努めていきます。

新潟大学×NTTコムウェア  
産学連携で加速する新たなデータサイエンス教育



NTTコムウェア株式会社  
ビジネスインキュベーション本部 データサイエンス推進室  
スペシャリスト 西村 恒人(写真左から2番目)※講師として参加  
メンバー 三澤 祐一(写真左から1番目)※講師補佐として参加

## 『データサイエンティスト育成シンポジウム 2020』で講演

2020年1月27日、新潟・万代シルバーホテルにおいて、新潟大学とBDA研究センターが主催する『データサイエンティスト育成シンポジウム2020』が開催。その中でNTTコムウェアも「企業が求めるデータサイエンス人材」と題した特別講演を実施しました。



※ 所属部署、役職等については、取材当時のものです。



NTTコムウェア株式会社

URL : <https://www.nttcom.co.jp/>

WEB掲載 : 2020.3